

# 日本史授業プリント近代5(077) 明治政府の樹立

2年 組 番 \_\_\_\_\_

## 新政府の樹立 ※<sup>1</sup>戊辰戦争の進行と併行して

<sup>2</sup>1868年1月 王政復古と天皇の外交権掌握を各国に通告

3月<sup>3</sup>五箇条の誓文 公布…天皇が百官を率いて神々に誓約する形式→天皇親政

<sup>4</sup>公議世論の尊重、<sup>5</sup>開国和親、旧習からの脱却など新政府の方針

<sup>6</sup>由利公正ゆりきみまさ(越前)が起草、<sup>7</sup>福岡孝弟たかちか(土佐)が改訂、<sup>8</sup>木戸孝允が加筆修正

<sup>9</sup>五榜の掲示 (五枚の高札) …民衆支配の方針

<sup>11</sup>儒教道徳、<sup>12</sup>徒党・強訴の禁止、<sup>13</sup>キリスト教の禁止など …幕府の政策を継承

閏4月 <sup>14</sup>政体書 …新しい政治組織(後述) 7月 江戸を<sup>15</sup>東京と改称

8月 明治天皇の即位式 9月 明治改元→<sup>16</sup>一世一元の制

※翌1869年3月 二度目の<sup>17</sup>東京行幸…<sup>18</sup>事実上の東京遷都

## 中央集権への道(地方制度) 1868~71

<sup>19</sup>1868. <sup>20</sup>政体書…<sup>21</sup>府藩県三治制…旧幕領に府県(知府事・知県事)、他は藩(藩主)のまま。

<sup>22</sup>1869.6 <sup>23</sup>版籍奉還 ←戊辰戦争の終結(5月) 藩の残存が新政の障害

領地(版図)と人民(戸籍)を天皇に返還→新政府が統一的に支配

旧藩主を<sup>24</sup>知藩事に任命…地方官として現地で藩政 ただし世襲は禁止

薩摩・長州・土佐・肥前の藩主がまず上表(木戸・大久保らが画策)→各藩も返還

→中央集権の実は上がらず…旧大名は実質的には温存

各地(特に府県)で農民一揆、長州で脱藩騒動などの混乱

<sup>25</sup>1871.7 <sup>26</sup>廃藩置県 ※薩摩・長州・土佐から召集した1万の<sup>27</sup>親兵を背景に決行

知藩事を罷免し、中央政府から<sup>28</sup>府知事・<sup>29</sup>県令(1886以後は県知事)を派遣

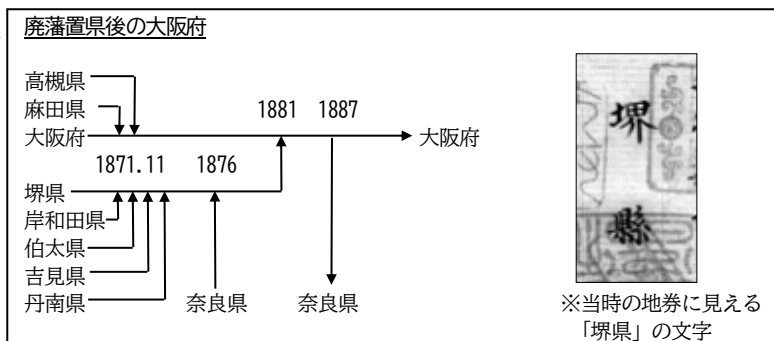
→東京に居住、俸禄(藩石高の1割)を支給、藩の負債を政府が肩代わり

3府(東京・大阪・京都)302県→11月には3府72県→1888年に3府53県

1872. <sup>30</sup>大区・小区制…府県の下に大区(区長)、その下に小区(戸長)を置く

画一的 江戸時代の自治的な村を無視

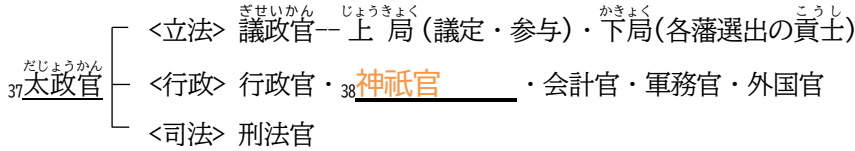
<例>



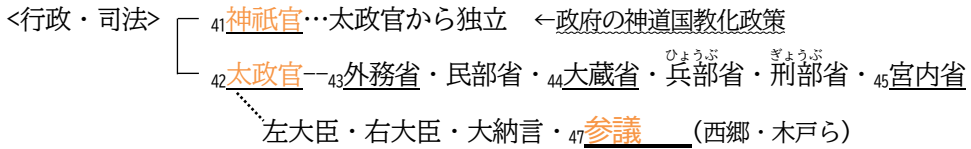
中央集権への道（中央制度）1868～71

1868. <sup>31</sup>政体書…<sup>32</sup>太政官制（<sup>33</sup>七官制） →以後、内閣制度(1885)まで基本は変わらず

<sup>34</sup>アメリカ合衆国憲法を模倣した<sup>35</sup>三権分立制 <sup>36</sup>官吏互選など欧米政治の導入

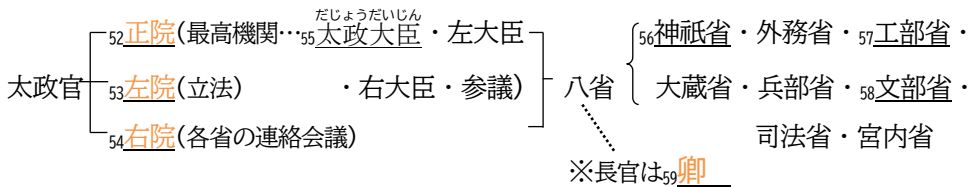


1869. <sup>39</sup>版籍奉還後の太政官制改革(<sup>40</sup>二官六省制)…大宝令に近い復古的な官制



<立法>（下局→）<sup>48</sup>公議所→<sup>49</sup>集議院 …各藩の代表 影響力は弱い

1871. <sup>50</sup>廃藩置県後の太政官制改革(<sup>51</sup>三院制)…集権体制の整備、神祇官の廃止



※その後、省は新設・改変 <例><sup>60</sup>内務省・<sup>61</sup>農商務省・教部省・<sup>62</sup>陸軍省・<sup>63</sup>海軍省など

☆<sup>64</sup>藩閥 政府の基礎…薩長土肥 4藩出身者と公卿のみで政権を構成

☆<sup>65</sup>明治維新…江戸末～明治初の政治改革 「<sup>66</sup>御一新」と呼ばれ期待が大きかった。

【時代順問題に挑戦】<2001年度 本試験 日本史Bより>

- I ③ 薩長土3藩の兵約1万を東京に集め、御親兵が組織された。
- II ② 総裁・議定・参与の三職が置かれ、参与には藩士からも就任した。
- III ① 薩長同盟(連合)が成立した。

# 日本史授業プリント近代5 (077) 明治政府の樹立

2年 組 番 \_\_\_\_\_

## 新政府の樹立 ※<sup>1</sup>戊辰戦争の進行と併行して

<sup>2</sup>\_\_\_\_\_年1月 王政復古と天皇の外交権掌握を各国に通告

3月<sup>3</sup>\_\_\_\_\_公布…天皇が百官を率いて神々に誓約する形式→天皇親政

<sup>4</sup>公議世論の尊重、<sup>5</sup>開国和親、旧習からの脱却など新政府の方針

…<sup>6</sup>由利公正ゆりきみまさ(越前)が起草、<sup>7</sup>福岡孝弟たかちか(土佐)が改訂、<sup>8</sup>木戸孝允が加筆修正

<sup>9</sup>\_\_\_\_\_ ( <sup>10</sup>五枚の高札 ) …民衆支配の方針

<sup>11</sup>儒教道徳、<sup>12</sup>徒党・強訴の禁止、<sup>13</sup>キリスト教の禁止など …幕府の政策を継承

閏4月 <sup>14</sup>\_\_\_\_\_ …新しい政治組織 (後述) 7月 江戸を<sup>15</sup>\_\_\_\_\_と改称

8月 明治天皇の即位式 9月 明治改元→<sup>16</sup>一世一元の制

※翌1869年3月 二度目の<sup>17</sup>東京行幸…<sup>18</sup>事実上の東京遷都

## 中央集権への道 (地方制度) 1868~71

<sup>19</sup>1868. <sup>20</sup>政体書…<sup>21</sup>府藩県三治制…旧幕領に府県(知府事・知県事)、他は藩(藩主)のまま。

<sup>22</sup>1869.6 <sup>23</sup>\_\_\_\_\_ ←戊辰戦争の終結(5月) 藩の残存が新政の障害

領地(版図)と人民(戸籍)を天皇に返還→新政府が統一的に支配

旧藩主を<sup>24</sup>\_\_\_\_\_に任命…地方官として現地で藩政 ただし世襲は禁止

薩摩・長州・土佐・肥前の藩主がまず上表(木戸・大久保らが画策)→各藩も返還

→中央集権の実は上がらず…旧大名は実質的には温存

各地(特に府県)で農民一揆、長州で脱藩騒動などの混乱

<sup>25</sup>1871.7 <sup>26</sup>\_\_\_\_\_ ※薩摩・長州・土佐から召集した1万の<sup>27</sup>\_\_\_\_\_を背景に決行

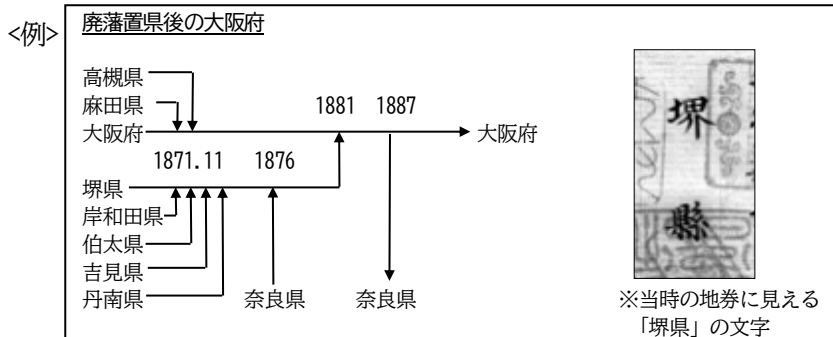
知藩事を罷免し、中央政府から<sup>28</sup>\_\_\_\_\_・<sup>29</sup>\_\_\_\_\_ (1886以後は県知事)を派遣

→東京に居住、俸禄(藩石高の1割)を支給、藩の負債を政府が肩代わり

3府(東京・大阪・京都)302県→11月には3府72県→1888年に3府53県

1872. <sup>30</sup>大区・小区制…府県の下に大区(区長)、その下に小区(戸長)を置く

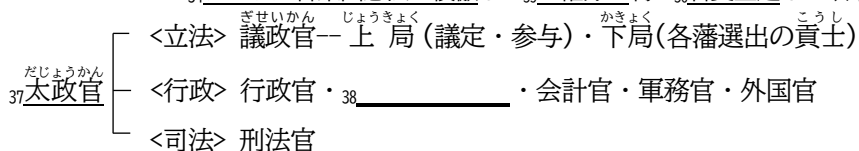
画一的 江戸時代の自治的な村を無視



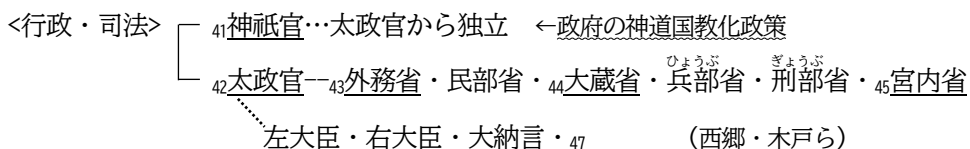
## 中央集権への道（中央制度）1868～71

1868. 31政体書…32\_\_\_\_\_（33七官制） →以後、内閣制度(1885)まで基本は変わらず

34アメリカ合衆国憲法を模倣した35三権分立制 36官吏互選など欧米政治の導入

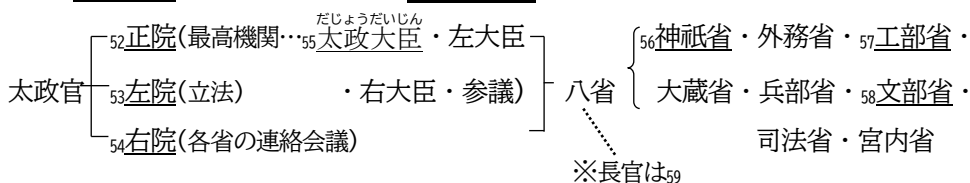


1869. 39版籍奉還後の太政官制改革(40\_\_\_\_\_)…大宝令に近い復古的な官制



<立法>（下局→）48公議所→49集議院 …各藩の代表 影響力は弱い

1871. 50廃藩置県後の太政官制改革(51\_\_\_\_\_)…集権体制の整備、神祇官の廃止



※その後、省は新設・改変 <例>60内務省・61農商務省・教部省・62陸軍省・63海軍省など

☆64\_\_\_\_\_政府の基礎…薩長土肥4藩出身者と公卿のみで政権を構成

☆65明治維新…江戸末～明治初の政治改革 「66御一新」と呼ばれ期待が大きかった。

【時代順問題に挑戦】 <2001年度 本試験 日本史Bより>

- I 薩長土3藩の兵約1万を東京に集め、御親兵が組織された。
- II 総裁・議定・参与の三職が置かれ、参与には藩士からも就任した。
- III 薩長同盟(連合)が成立した。